

はじめに

深良地域内では、平成 17 年度の市議会への深良新駅設置請願提出を始めとして、裾野新駅建設促進期成会、深良地区まちづくり協議会の 2 団体において、新市街地構想など深良の未来に向けた活動が継続的に行われて来ました。そして、それから 10 年以上が経ち、少子高齢化の進展と人口減少が目に見えてはっきりする中、改めて深良地域の将来について、地域の住民を中心として夢を語り、問題を拾い出し、次の深良っ子に引き継ぐ深良地域の将来像を、地域ぐるみで考えて行かなくてはならないという思いを共有するに至りました。

そして、平成 29 年度からは、深良地区区長会を中心に「深良っ子に引き継ぎたい地域像という夢を共有し、10 年後、20 年後の深良地域の姿を地域ぐるみで考えてみよう」との趣旨で、深良地域の在り方について考える機会として、ワークショップが継続的に開催され、多くの地域住民の参加による活発な意見交換が行われました。

その結果、5 回に渡って行われたまちづくりワークショップの成果として、地域住民で描く夢のまちづくり絵図としての「深良 夢まちづくりマップ」を、平成 31 年 3 月 26 日に、中間報告として裾野市長に提出しました。

そして、元号も変わった令和元年度には、更に 3 回のワークショップを開催し、「どこから行く?」「2 つのゾーンに思いを込める」「自分の「かかわり」をみつけよう」を各回のテーマとして進め、今回、アクションプランにまで踏み込んだ「深良地域まちづくりグランドデザイン」をまとめるに至りました。

取りまとめた「まちづくりグランドデザイン」を掲載しておりますが、ここで止まることなく、この後も、先行的具體化検討となったものは、行政とともに思いのある地域のリーダーを中心に、より加速的に進めていきます。また、トヨタの Woven City 構想など、新しく発信される社会情勢の変化にあわせ、深良地域全体の将来まちづくりについて、これからも柔軟に検証、修正し、地域の思いが反映できるよう定期的なワークショップの開催を進めていきます。

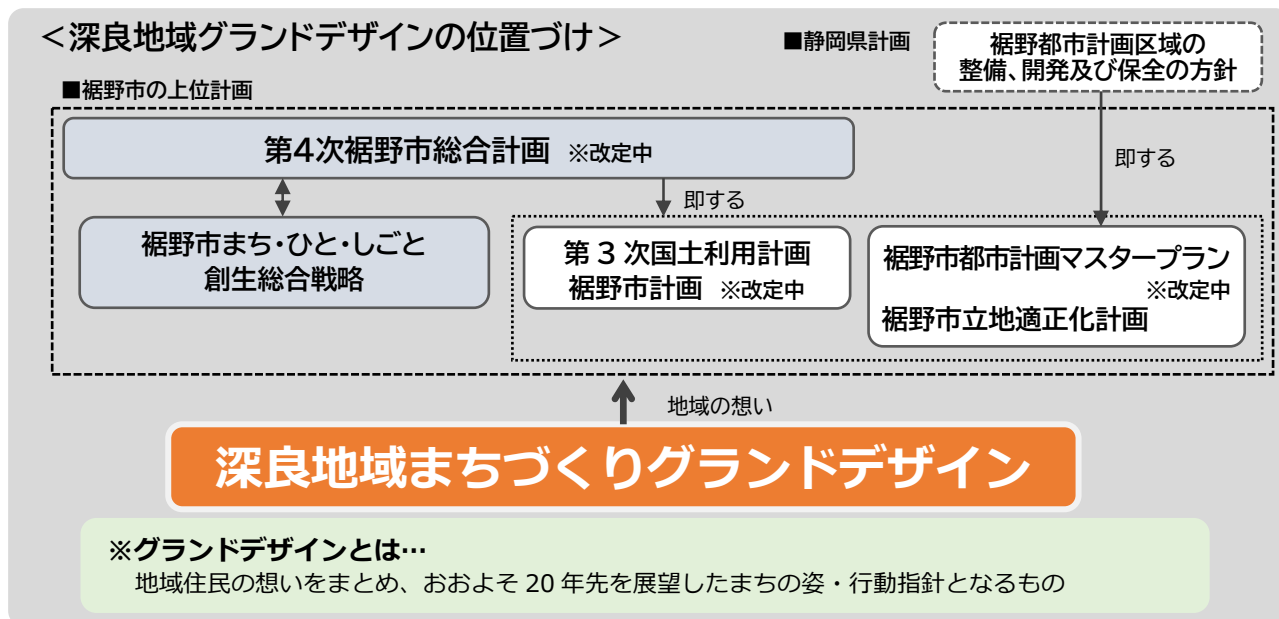
目 次

はじめに -----	1
1. グランドデザインの位置づけ -----	2
2. 深良地域の特性 -----	3
3. 深良ワークショップの振り返り -----	8
4. 深良地域で描く将来のカタチ -----	12
5. イチオシエリアと残しておきたいエリア -----	18
6. アクションプラン -----	22

1. グランドデザインの位置づけ

1-1 グランドデザインの位置づけ

グランドデザインは、深良地域における将来のまちづくりの在り方について、地域住民の要望やアイデアなどをまとめ、形にしたものです。今後、裾野市のまちづくりと連携しながら、持続可能な地域づくりに向けて、地域の方の想いを実現していくための道しるべとなります。

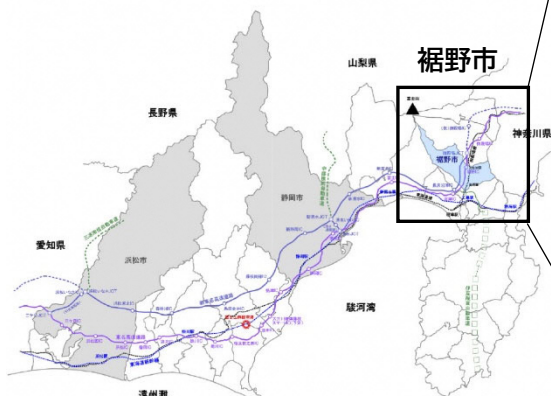


1-2 グランドデザインの対象エリア

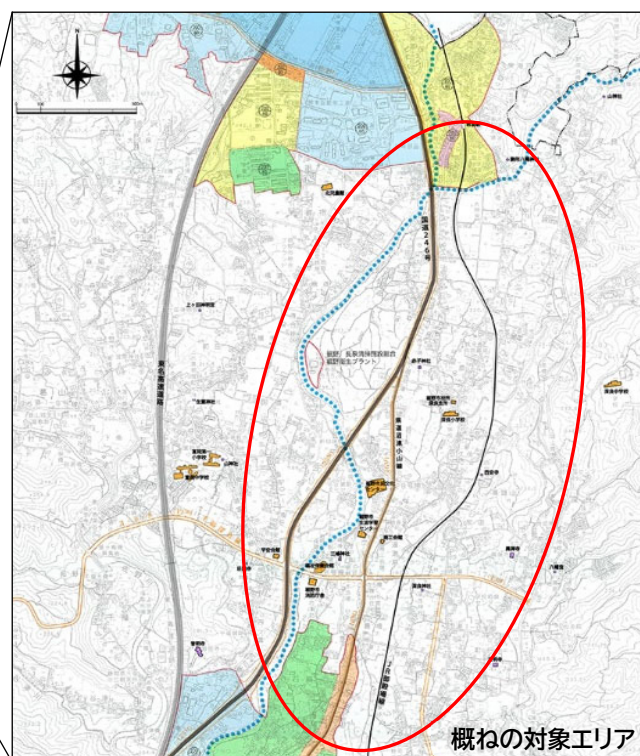
グランドデザインの対象エリアは、深良地区を中心とした、右図に示す概ねの範囲となります。

＜概ねの目安＞

- 地域北：岩波駅周辺
- 地域南：市街化区域周辺（深良神社周辺）
- 地域東：黄瀬川・国道246号周辺
- 地域西：深良中学校周辺

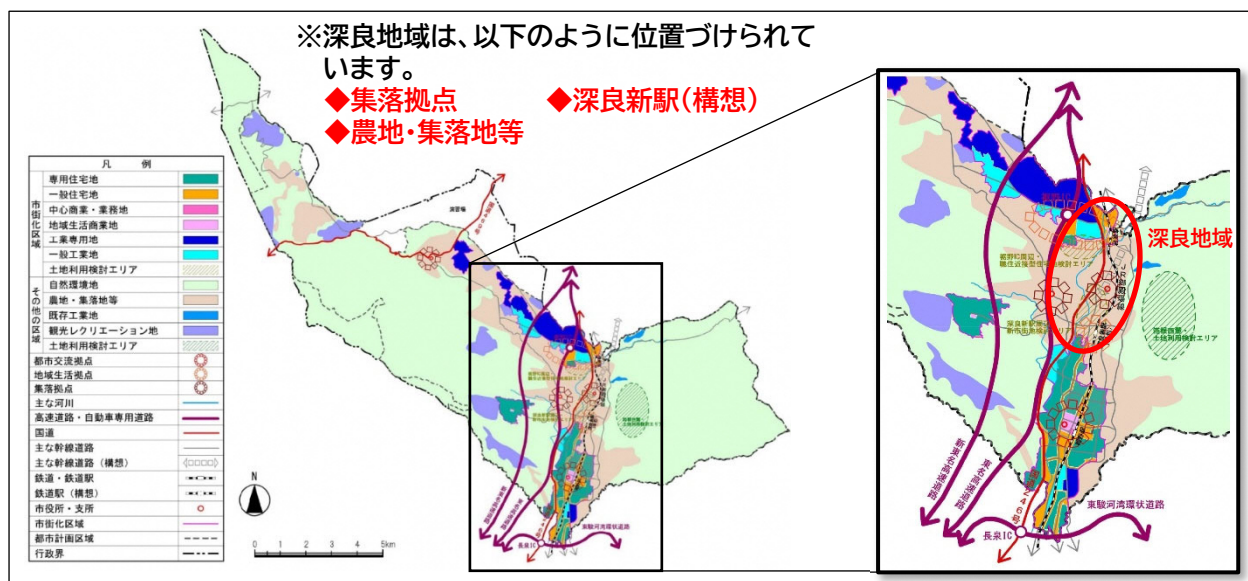


2



④裾野市都市計画マスタープラン(H28.3) ※改定中

都市づくりの方向性・ 基本理念・テーマ	都市づくりの基本理念:誰もが生き生き暮らし満足都市の実現
都市づくりの方向性	●多様な主体の参画 ●安全・安心な社会の形成と市民生活の質の向上 ●都市活力の持続と向上 ●交流と連携の強化 ●自然環境との調和・共生
将来都市構造の 基本的な考え方	富士・愛鷹山と箱根山の山麓の豊かな自然環境を引き続き保全し、本市の魅力として最大限に活かしながら、調和・共生を図ります。そのため、これまでの成り立ちを踏襲し、既存ストックや豊かな地域資源等、地域特性を活かした拠点を配置し、各拠点における都市機能の強化・充実(集約化)を図り、拠点間が有機的に連携した「拠点連携型都市構造」を目指します。これにより、多様な都市機能を備えるとともに、活力ある産業や交流を育み、安全・安心に生活できる都市を構築します。



⑤裾野市立地適正化計画(H31.4)

目指すべき 将来都市構造	裾野市版コンパクトシティ・プラス・ネットワークの方向性 2つの拠点の特色を活かした 『ダイヤモンド富士型』 都市構造による持続可能なまちづくり 裾野市が目指す 『ダイヤモンド富士型』コンパクトシティ ◇富士山のように高く、拠点の魅力と利便性を向上する ◇市街地・住宅地を結ぶ公共交通ネットワーク ◇郊外の住宅地や集落とつながることで、より拠点の光が輝く
-----------------	---



※深良地域は地域生活拠点として、以下のように位置づけられています。

段階的な都市機能の集積を図り、長期的な視点で拠点連携型集約都市の形成を目指す

⇒都市計画マスタープランで地域生活拠点(新市街地検討エリア)に位置づけられた深良地域は、「計画の進捗や社会情勢・市民ニーズの変化等により、段階的に都市機能誘導を図る検討が必要」とされています。

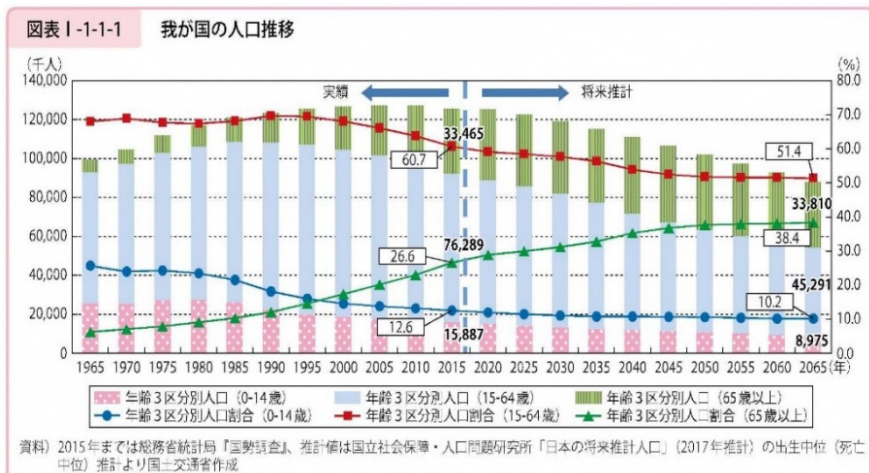
また、裾野駅周辺、岩波駅周辺とともに、長期的な視点による拠点連携型の集約都市の形成を目指すとしています。

2-2 これからのまちづくりに求められること

これからのまちづくりを進めていく上で、一般的に必要とされるキーワードを整理しました。

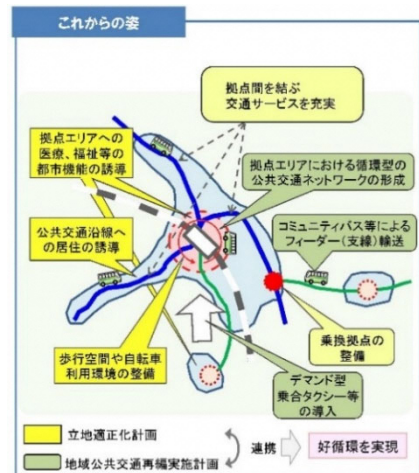
急激な人口減少、少子高齢化の進展	○我が国の総人口は 2008 年(平成 20 年)をピークに減少し、高齢化率は過去最高を更新するなど、「超高齢社会」を迎えることが予想されます。 ○今後、人口減少が都市部より先行して進んでいる地方都市では、多くの自治体で都市経営の維持が困難になることが懸念されています。
集約型都市構造への転換 (コンパクトシティ+ネットワーク)	○人口減少に伴い、都市のスポンジ化(空地・空家)が発生することが懸念されるほか、市街地の低密度化により、一定の人口集積に支えられていた都市サービスや公共交通等が廃止・撤退のおそれがあります。
持続可能な開発目標への 取組み(SDGs)	○「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とした健康・福祉、環境、教育、経済成長等による 17 の国際目標が掲げられ、豊かで活力ある未来を創ることが求められます。
強靱な国土の形成	○東日本大震災をはじめとする未曾有の大災害の頻発化、集中豪雨、台風、雪害など、多くの自然災害が発生、さらには、今後 30 年間で南海トラフ地震の発生確率は 70%と予想されているなど、防災・減災による取組みによる、強くてしなやかな国土づくりが求められています。
ICT、IoT などの技術革新 の進展	○ICT や IoT、AI 等の新技術の発達により、SNS 等による人とのつながりやコミュニティ形成の多様化が浸透しつつあり、IoT で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これからの課題や困難を克服する「Society5.0」による取組みが求められています。

■我が国の人口動態



※出典:国土交通白書

■コンパクトシティ+ネットワークの考え方



トピックス:『コネクティッド・シティ』

- ・トヨタ自動車は、トヨタ自動車東日本株式会社東富士工場の跡地を利用して、あらゆるモノやサービスがつながる実証都市「コネクティッド・シティ」を設置し、「Woven City」と命名したまちづくりを 2021 年(令和 3 年)初頭より着工することを発表しました。
- ・このプロジェクトは、人々が生活を送るリアルな環境のもと、自動運転、モビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)、パーソナルモビリティ、ロボット、スマートホーム技術、人工 知能(AI)技術などを導入・検証できる実証都市を新たに作るものです。
- ・プロジェクトの狙いは、人々の暮らしを支えるあらゆるモノ、サービスが情報でつながっていく時代を見据え、この街で技術やサービスの開発と実証のサイクルを素早く回すことで、新たな価値やビジネスモデルを生み出し続けることとしています。

2-3 深良地域の現状・特性

深良地域の特性を統計データや上位計画から確認していきます。

①人口

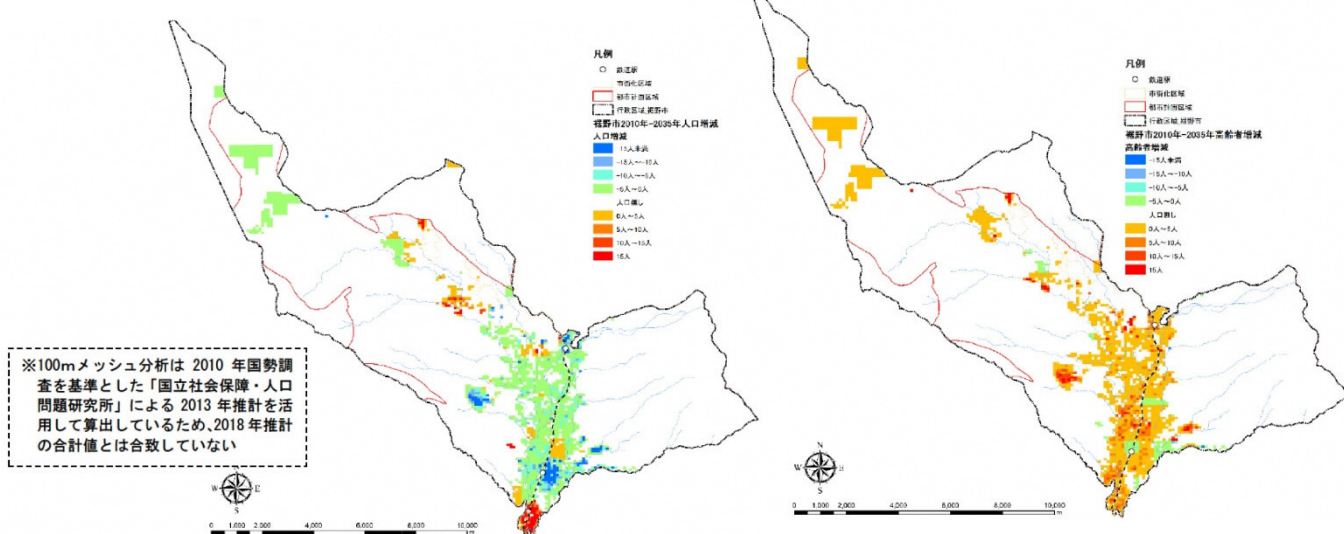
裾野市の人口は平成25年(2013 年)から減少に転じています。深良地域も同様な傾向にあり、減少率は市全体より大きくなっています。

平成 22 年(2010 年)から令和 17 年(2035 年)における人口増減の推計をみると、深良地域は－5 人～0人の減少エリアが広がっており、将来的にも人口の減少が進むことが予想されます。

また、将来の高齢者数を見ると、深良地域は3～5人の増加エリアが広がっており、人口減少とは逆に、今後は高齢化が進行していくものと予想されます。

■2010 年～2035 年の人口増減

■2010 年～2035 年の高齢者数増減

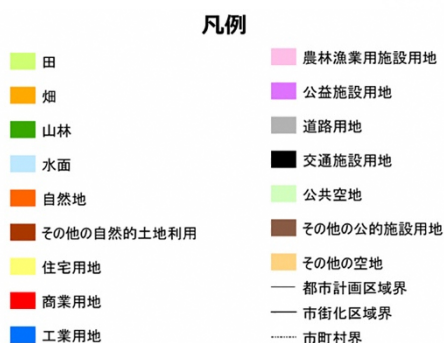


※出典：裾野市立地適正化計画

②土地利用

裾野市は裾野駅周辺や岩波駅周辺、国道 264 号沿いなどを中心に、都市的土地利用が形成されています。

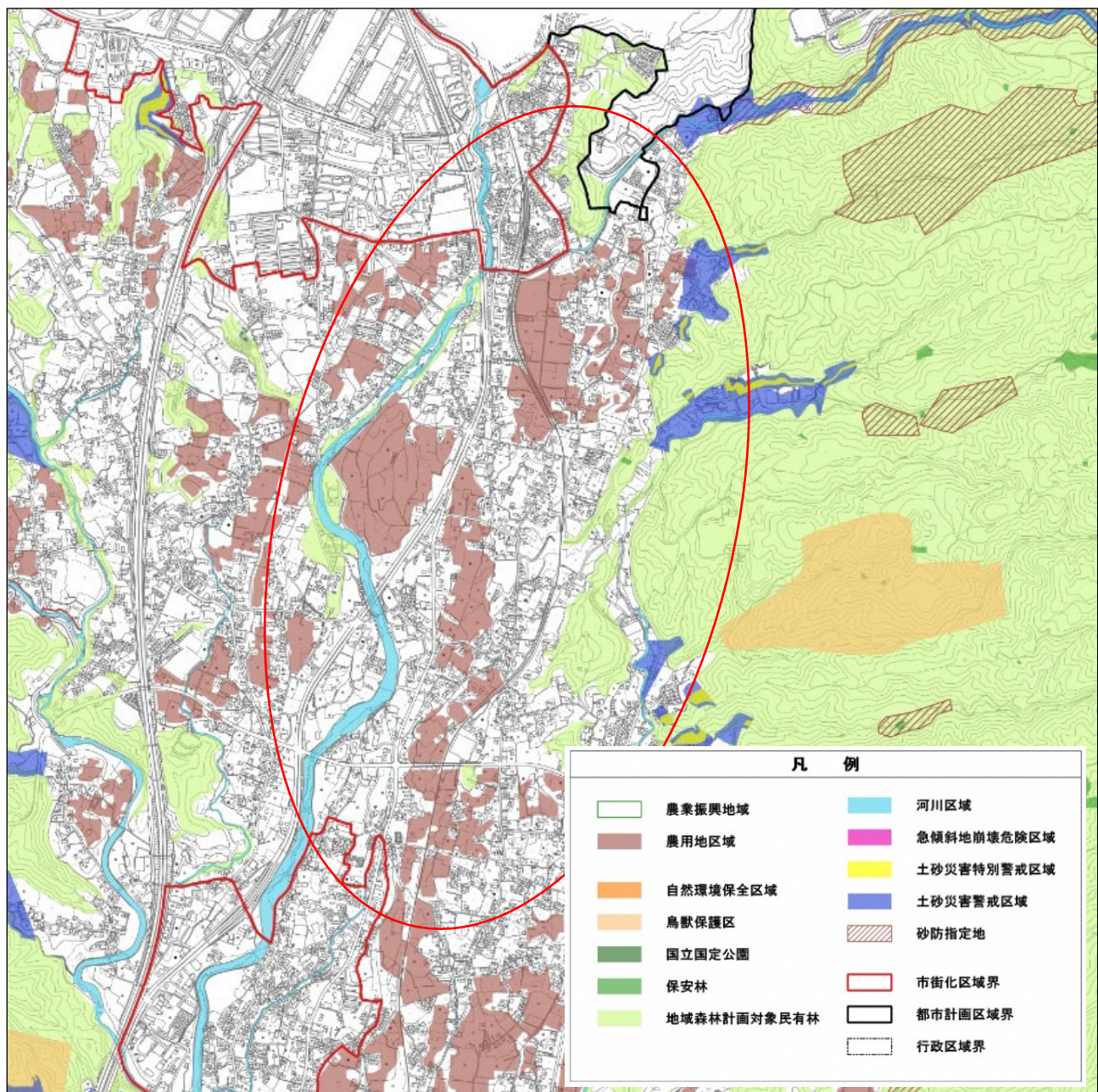
深良地域を見ると、集落等による利用も見られますが、田を主とした農地利用も広く行われています。



③法規制の状況

深良地域では、主に 5 つの土地利用に係る法的規制があります。

市街化調整区域 ※都市計画法	地域全体は、都市計画法により「 <u>当面できるかぎり市街化を抑制すべき区域</u> 」となる市街化調整区域となっています。
農振農用地区域 ※農振法	地域の殆どが、「 <u>農業の健全な発展を図るとともに、国土資源の合理的な利用に寄与する</u> 」とした農振農用地区域となっており、原則的に農地転用の制限等がある農用地が散在しています。
河川区域 ※河川法	地区を南北に流れる黄瀬川、深良川、泉川は、河川法による <u>1 級河川(国土交通大臣が指定)</u> に指定されており、区域内での工作物の新築や土地の掘削等を行う場合は、許可が必要となります。
土砂災害警戒区域 ※土砂災害防止法	地区東側の丘陵地には、「 <u>急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある</u> 」と認められる土砂災害警戒険区域に指定されており、建築物の構造等の規制があります。
森林区域 ※森林法	地域東側は森林法による地域森林計画対象民有林として管理されています。



3. 深良ワークショップの振り返り

3-1 深良ワークショップ、懇談会等の開催経緯

深良地域では、平成 29 年 12 月の第 1 回深良ワークショップを皮切りに、令和 2 年 2 月末現在で、延べ 8 回のワークショップを開催しました。

ワークショップには、小中学生などの若い方たちや、女性の方の参加もあり、毎回多くの参加者があつまり、熱心な話し合いが行われました。

	開催日	テーマ
第 1 回 深良ワークショップ	H29.12.4	深良っ子に引き継ぎたい地域像の共有
第 2 回 深良ワークショップ	H30.2.19	地域像の具体化 勉強会:10年後、20年後の姿を考える
第 3 回 深良ワークショップ	H30.7.2	今まで何もしてないの？足下の活動を知ろう！
第 4 回 深良ワークショップ	H30.10.26	深良の将来マップを作ろう
第 5-1 回 深良ワークショップ	H31.2.16	まち歩き
第 5-2 回 深良ワークショップ	H31.3.2	構想をもう一度点検
第 6 回 深良地区まちづくり懇談会	R1.7.1	どこから行く？
第 7 回 深良ワークショップ	R1.11.16	2つのゾーンに思いを込める
第 8 回 深良ワークショップ	R2.2.1	自分の「かかわり」を見つけよう ミニ勉強会:財源の確保、土地利用の規制

3-2 深良ワークショップの主な意見概要

各回での話し合いの結果を振り返ります。

(1)第1～2 回深良ワークショップ

Aグループ	深良用水保全 ☆環境、☆教育、☆人とのつながり、☆地域の賑わい（基盤整備）
Bグループ	人 自然・文化 ☆人が集まる深良、☆古き良き自然・文化
Cグループ	自然豊かな環境を保ちつつ、便利で賑わいのある、文化のまち
Dグループ	人柄、景観→医療、教育、商店、働く場所、道路、産業→暮らしやすい 「安心・安全なまち」「自慢できるまち」「幸せを生むまち」
Eグループ	☆深良用水と富士山の自然が融合できる場所、☆三世代が住みやすく、新しく住む 人にやさしい地域である、☆人々がつどい、商業施設を作るチャンスがある
Fグループ	☆歩いて暮らせる地域、☆歴史・文化・自然を大切にする、☆住民の居場所のある地域
Gグループ	新駅を中心に、今ある公共施設を活用し、住みたくなる街づくり
Hグループ	☆貴重な深良用水の歴史を学びながら、深良用水の歴史資料館をつくる（伝統工芸館、レストランを併設）、☆溶岩の特徴の風景（景観）を保存しながら、黄瀬川資料館（+富士山）をつくる
Iグループ	☆景観は富士山の見え方、豊かな森林、山と素晴らしいものはそのままに、それらを繋ぐ、道や交通網を整備していきましょう ☆交通網を地域にあった短時間、短距離で繋ぐ。高速道路、箱根からの観光交通網の中継点。新駅、高速バス、登山バス、JR 線→岩波駅 ☆深良用水の伝統文化を守り、継承していく施設、制度の整備。深良用水の隧道を歩きたい

(2)第3回深良ワークショップ

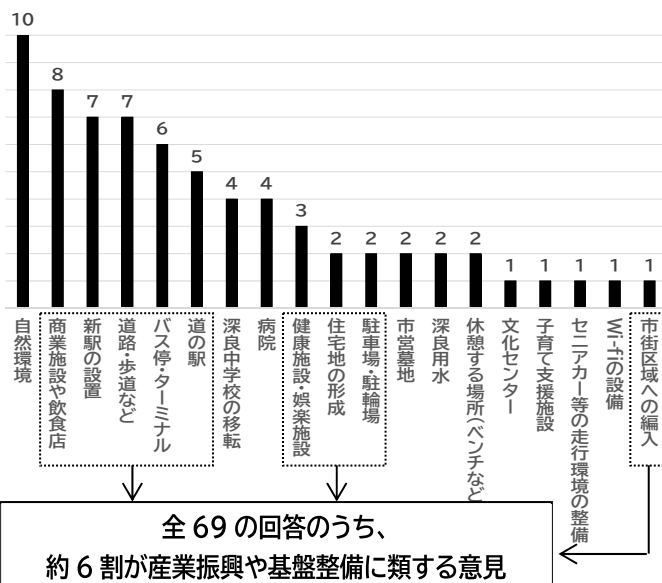
テーマ		目標	方針
1	環境保全 (自然文化・深良用水)	水を守る	①地域の人が山を守る ②生活をしている人が川をキレイにする ③大人が子どもに伝える
2	人材育成 (教育・人のつながり・コミュニティ)	地域活動を通して人作り	①皆でお祭りを盛り上げる ②皆で助け合うボランティア ③世代間の交流を図る
3	産業振興 (賑わい・商業・公共施設)	裾野の中心地 深良！ 新駅からの転換	①バスターミナルの新設 ②賑わいの中心地へ
4	居住環境 (住みやすさ・歩いて暮せる)	コミュニティを保全しよう	①行政が空地・空家を生かして集いの場を作る 住民は、それを有効に活用する ②①を生かして地域のリーダーが集いの企画をする ③行政が、水道光熱費の補助をする(日本一安い)
5	基盤整備 (道路・交通・新駅)	駅のあるまちづくり	①地主の協力が必要(土地の提供) ②行政の協力が必要(予算・計画) ③JRの理解が必要(設置計画決定)

<活動の様子>

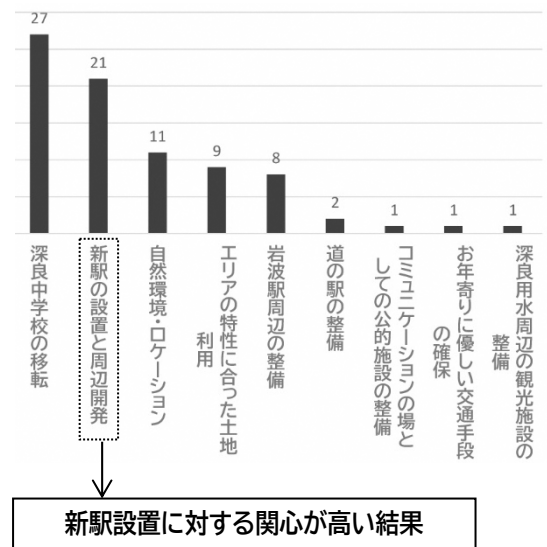


(3)第4回深良ワークショップ

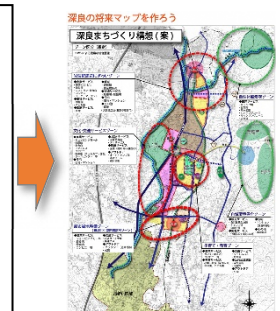
◆今ある建物・場所をもっと活かすために必要な建物・場所



◆投票結果



(4)第5-1回深良ワークショップ(まち歩きによる点検)



(5)第 5-2 回深良ワークショップ

<活動の様子>

	発表概要	
Aチーム	子育て・教育ゾーン	・“文教ガーデン地区”の形成
	新市街地整備ゾーン	・複合施設の建設 ・交通拠点(新駅、ターミナル)の実現 ・高架の下の有効活用 等
Bチーム	文化・交流サービスゾーン	・「道の駅」の開設 ・国道 246 号沿道の土地の有効活用 ・四季の花木イベント
Cチーム	その他	・地域の拠点としての興禅寺の開放 ・深良の歴史の周知・PR ・御殿場線の景観の保全、ビューポイントの整備 ・個人住宅の庭の共有化、水路の活用 等
Dチーム	文化・交流サービスゾーン	・全世代が楽しめる公園の整備 ・資料館・展示室の集約化 等
	新市街地整備ゾーン	・バスターミナルの整備 ・飲食店の誘致 等
Eチーム	自然環境保全・自然体験満喫ゾーン	・深良中学校移転跡地の有効活用 ・市営墓地の公園化 ・林道の整備

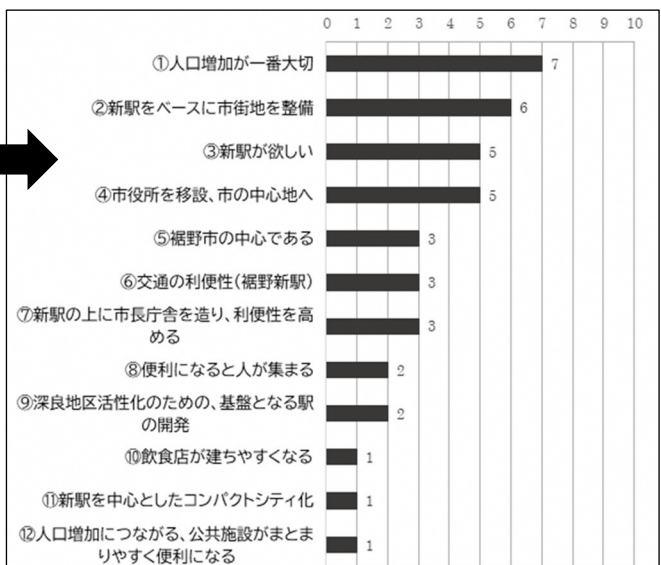


(6)第 6 回深良ワークショップ

◆イチオシ

	グループ数	割合
1. 岩波駅周辺にぎわいゾーン	0	0.0%
2. 自然環境保全ゾーン	0	0.0%
3. 文教・学園ゾーン	1	14.3%
4. 新市街地整備ゾーン	6	85.7%
5. 文化・交流サービスゾーン	0	0.0%
計	7	100.0%

イチオシの主な理由



◆残しておきたい

	グループ数	割合
1. 岩波駅周辺にぎわいゾーン	0	0.0%
2. 自然環境保全ゾーン	2	25.0%
3. 文教・学園ゾーン	3	37.5%
4. 新市街地整備ゾーン	0	0.0%
5. 文化・交流サービスゾーン	3	37.5%
計	8	100.0%

(7)第 7 回深良ワークショップ

<活動の様子>

	ハード面で共感された意見	気になる意見(不安要素)
新市街地整備ゾーン	新駅を中心とした商業施設や公共施設による構成、他の地域よりアクセスしやすい動線の確保、バスターミナルを中心に人集め(総合運動場)、大型商業施設、暮らしやすい街(多機能集約型土地利用)	新駅の誘致の確実性、土地利用の規制解除(市街化区域への編入可否含む)、財源の確保
文教・学園ゾーン	ヤギ in 深良(動物とのふれあい体験)、文教地区として集約化(深良中を文教地区へ移転)、深中跡地周辺に美化センター(健康センター等)、森林公園／ハイキングコース・マウンテンバイク等	資金が心配

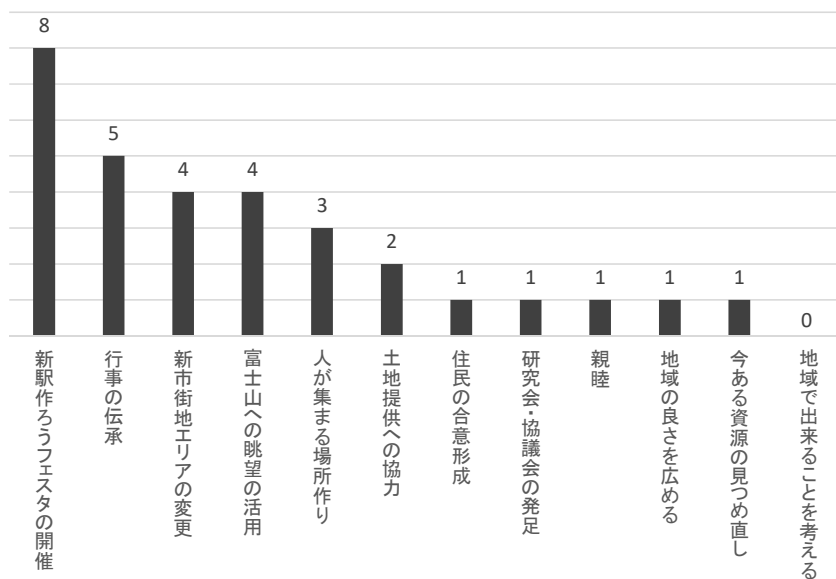


(8)第 8 回深良ワークショップ

行政がやるべきこと	地域がやるべきこと	個人がやるべきこと
◆行政の準備(都市計画の見直し等) ◆夢の実現(新駅等) ◆計画づくり(デベロッパー、コンサルタントの活用等) ◆住み良く楽しいまちづくり(土地利用の規制解除、財源確保等) ◆区画整理の実現(調整区域の解除、インフラ整備等)) ◆トヨタ未来都市計画との連携 ◆企業・法人、大学の誘致 ◆Youtube 等を活用した広告・PR ◆資金の確保(クラウドファンディング等)	◆合意形成(研究会等の設置、合意形成等) ◆理想の未来の実現(小中一貫校等) ◆連携(トヨタ等との協力) ◆人が集まる場所づくり(朝市・マルシェ等) ◆交通(バス、自動車の活用等) ◆親睦(地区行事等の見直し) ◆住民理解と意志統一 ◆富士山の眺望を活かし、人を呼び込む(富士山ビューポイントのPR等) ◆地元の意見を聞き、地域の良さを広める(ニーズ調査等)	◆協力(深良ワークショップのPR・周知等) ◆生きがい(農園・菜園など人の営みの継承) ◆地域との関りを深める ◆都市計画法や農振法を正しく理解

<投票結果>

内容	投票数	割合
新駅作ろうフェスタの開催	8	25.8%
行事の伝承(役から逃げない)	5	16.1%
新市街地エリアの変更(岩波へ)	4	12.9%
地域 富士山が良く見えることを活かし、人を呼び込む	4	12.9%
人が集まる場所作り	3	9.7%
土地提供への協力(意見集約)	2	6.5%
住民の意思統一・合意形成	1	3.2%
研究会・協議会の発足	1	3.2%
親睦	1	3.2%
地元の意見を聞きながら、需要を把握し、地域の良さを広める	1	3.2%
今、ある資源の見つめ直し	1	3.2%
さらに地域で出来ることを考える	0	0.0%
計	31	100.0%



<活動の様子>



4. 深良地域で描く将来のカたち

ワークショップで出された皆さんからのご意見を“まちづくり提言”としてまとめました。
 なお、法規制(土地利用規制等)に捉われず、自由な発想で出されたアイディアとしてまとめています。

4-1 深良地域のまちづくり基本方針～まちづくり提言～

① 文教・学園ゾーン

小中一貫教育の場と合わせて、文教機能や子育て支援機能等の集約化による子育て・教育の拠点エリアづくりを進める。

①-1 小学校周辺の富士山への眺望を活かし、小中一貫校を含む文教地区を形成する

<主な取組内容に係るアイディア>

ハード	ソフト
◇小学校西側・南側の小中学校用地化(小中一貫教育) ◇中学校南側で富士山の見える公園整備とスポーツ機能の併設 ◇文教地区として相応しい文教機能の誘致 等	◇子供たちの見守り ◇富士山の眺望を活かした田んぼアートイベント 等



①-2 古道活用(遊歩道化等)による歩いて歴史を知る道をつくる

<主な取組内容に係るアイディア>

ハード	ソフト
◇西安寺を中心とした遊歩道整備 ◇古道を活かした、ウォーキングコースやお寺を巡る哲学の道の整備 ◇車道と歩道を分け、安全な散歩道の整備 等	◇地域が協力し、歴史を伝える活動への取組み ◇石碑や石像の周知 等



①-3 御殿場線と西安寺・大森山・富士山を含めたビューポイントを活用し、周知する

<主な取組内容に係るアイディア>

ハード	ソフト
◇富士山ビューポイントの確保 ◇西安寺・大森山の緑の保存・活用 ◇桜の公園整備(穴口等) 等	◇御殿場線からの眺めを確保し、花を植える ◇荒れ地等の手入れ ◇SNS等を活かした周知 等



①-4 地域に残る歴史資源や文化を活かした環境をつくる

<主な取組内容に係るアイディア>

ハード	ソフト
◇興禅寺の裏山に残る竹林・白梅・赤梅を活かした公園・休憩所としての利活用 ◇お寺に集まり、お話を聴き、話し合える場所づくり ◇空家・空地の活用 等	◇興禅寺の活用(開放等) ◇地域の祭りなどを盛り上げ、伝承する ◇跡継ぎの育成 ◇民話の掘り起こしや高齢者等による歴史・文化の伝承 等



①-5 自然と住宅が共存し、みんなを迎える(ウェルカム)環境をつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇自然と住宅の共存 ◇空家・空地の活用 ◇ポケットパークの整備 等	◇空地や耕作放棄地への植栽 (花を植えるなど) ◇地域の農作物・農産品等の 紹介・提供 ◇地域見守り活動の実施 等



①-6 地域を流れる水路を活かした癒しと遊びの空間をつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇水路による遊び場の整備 等	◇身近な水路の活用(足を 冷やす・癒し等) ◇清掃・美化活動の実施 ◇不法投棄等の防止に向け た管理・点検 等



②新市街地整備ゾーン(環境共生型田園都市ゾーン)

新駅設置と合わせて、交通ターミナルと多様な機能が複合し、地域が一丸となって新しい活力ある市街地づくりを進める。

②-1 新駅やバスターミナルの設置と合わせ、ショッピングモール・健康医療施設などの複合施設をつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇駅と一体となった複合施設の建設 ◇ショッピングモール、飲食店、産直市場の整備 ◇子育て、育児の育成場所、遊技場・公園等の設置 ◇高齢者へ配慮した病院、介護、健康保持等ができる施設の建設 ◇遊休農地を活かしたAIを使った野菜工場の建設 等	◇空地や農地の有効活用 ◇集客を機会とした地元ブランドの宣伝 ◇地域や地主の方の積極的な連携と協力 ◇地域による話し合い 等



②-2 千福町田線の高架橋及び高架下を利用した新交通網を導入する

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇千福町田線を生かし、道路で分断されない駅の建設 ◇千福町田線の自動運転バスの運行 等	◇千福町田線や高架部を富士山の眺望スポットとした案内板の設置 ◇公共交通の利用促進 等



②-3 インフラ整備をして便利なまちをつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇新駅・新市街地のためのバスターミナル、ハブ・ターミナルの整備 ◇高速バスや企業バス進入のスムーズ化 等 ※バス・タクシー・シェアカー・シェアサイクル物流等のハブとなるターミナル	◇JRや交通事業者等への働きかけ ◇高齢者等の移動支援(助け合い) 等



③文化・交流サービスゾーン

富士山を望みながら、文化センターなどの施設立地や国道 246 号沿いの特性を活かした深良文化を知り、多様な交流が育む地域づくりを進める。

③-1 富士山がきれいに見える田園風景をウリにした道の駅をつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇富士山のよく見える道の駅の整備(公園と併設等) ◇深良用水記念館の建設 ◇水田に映る富士山フォトスポットの設置 等	◇黄瀬川(溶岩等)の見どころ紹介 ◇大洞川の水質の管理(きれいに保ち、ホタルの育成やミシマバイカモ等を育てる等) 等



③-2 全世代が楽しめる魅力的な公園をつくる

～文化センター遊歩道・親水公園・せせらぎ公園をつなげる～

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇文化センター・せせらぎ・親水公園が有機的につながった親水公園の整備 ◇国道沿いの親水公園の整備(安全な場所に) ◇各施設の連絡道の整備(歩道の整備) 等	◇多世代利用(運動器具等)の器具設置 ◇バーベキューの実施 ◇文化センターの図書館の機能充実 ◇ほたるの鑑賞会の開催 等



③-3 文化・教養施設を集約化し、深良の魅力を伝える

<主な取組内容に係るアイデア>

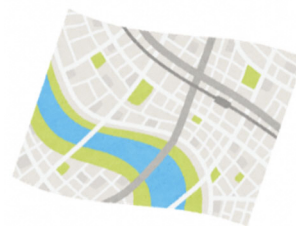
ハード	ソフト
◇裾野の教育・文化施設を集約 ⇒美術館・博物館の建設、図書館、富士山資料館、深良地区郷土資料館(統合化)、若山牧水記念室、深良用水特別展 等 ◇文化活動の場の整備 等 ⇒絵画、料理、囲碁、将棋等	◇施設内容の充実・グレードアップへの働きかけ ◇芸術家の育成 ◇庭園等の利活用 等



③-4 各ゾーンの魅力を周知する

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
—	◇案内マップの作成 ◇広報による周知(利用度を上げる) ◇水路の水、ホタル保護 ◇ミシマバイカモの育成 等



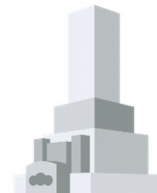
④自然環境保全・自然体験満喫ゾーン

市営墓地や深良中学校移転跡地などを有効に活用しながら、豊かな自然の中で様々な体験と交流を育む場づくりを進める。

④-1 眺望を活かし、彩りある市民の憩いの場を創る

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇市営墓地の公園化とPR ⇒望遠鏡、遊歩道等 ◇カフェ、展望台の設置 ◇遊歩道の整備 ◇箱根山の下の開発 等	◇墓地の装飾 ⇒お雛様を飾る、オルゴール つき時計台等 ◇年間を通した花による彩り／斜面の植栽等 等



④-2 森林を活かした健康づくりのためのハイキングコースを整備する

<主な取組内容に係るアイデア>

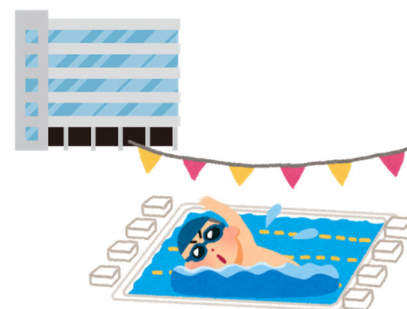
ハード	ソフト
◇サイクリングコースやハイキングコースの整備 等	◇深良の森林を活かした観光ツアー ⇒バナナの木保存等 ◇ターザンロープやジップラインで遊べる森に ◇森林のイルミネーション ⇒クリスマスの装飾等 ◇森林間伐 等



④-3 スポーツ・環境施設などによる深良中学校跡地の有効利用を進める

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇温水プール、スポーツクラブ、美化センターの整備 ◇中学校の建物を有効に活用し、給食レストラン・給食センターの複合施設へのリノベーション ◇キャンプ場の整備 等	◇中学テニスコートの市民への開放 ◇ロケ地としての活用 等



④-4 豊かな自然環境を守り、水に親しみ・遊べる魅力ある川をつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇ロケーションを活かした河川整備(公園等) 等	◇黄瀬川のジオパーク化 ◇川の観光スライダー ◇清掃・美化活動の実施 ◇不法投棄等の防止に向けた管理・点検 等



⑤岩波駅周辺にぎわいゾーン

駅を有する立地環境を活かし、深良地域を伝え、魅力ある生活をおくられる場づくりを進める。

⑤-1 駅周辺の魅力を高め、安心して暮らせるまちをつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇駅周辺の整備 ◇商業施設の充実 ⇒商店・コンビニ、飲み屋、レストラン・飲食店、スーパーマーケット等 ◇福祉機能の充実 ⇒幼稚園、こども園、病院等 ◇新たな住宅地の整備(マンション等) 等	◇コミュニティの維持 ◇空家・空地の活用 ◇情報交換や話し合い等の活動 ◇高齢者や子どもたちの見守り 等



⑤-2 安全面に配慮した交通利便性の高い環境をつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇交差点の改良(安全確保) ◇駐車場の確保 等	◇通学時の見守り 等



⑤-3 鉄道や道路環境を活かし、裾野の魅力を伝える場をつくる

<主な取組内容に係るアイデア>

ハード	ソフト
◇地図や案内板の設置 ◇資料館の整備 等	◇農産物販売や土産品の販売 ◇銅像(大庭源之丞、友野与右衛門) 等

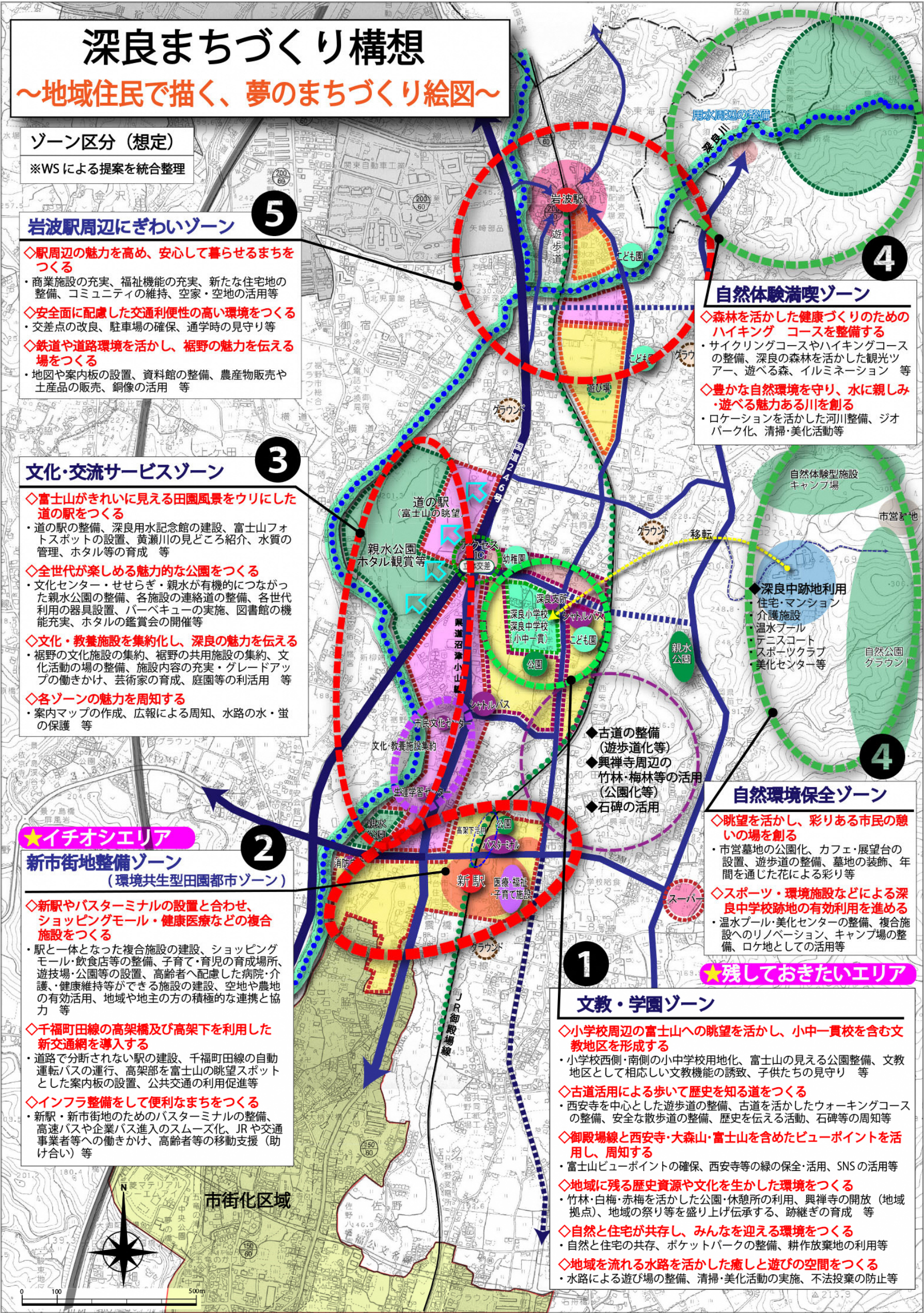


⑥その他(地区全体)

- ◆深良の歴史の周知・PR
- ◆御殿場線の景観の保全、ビューポイントの整備
- ◆個人住宅の庭の共有化、水路の活用 等

4-2 まちづくり夢マップ

まちづくり基本方針をマップでまとめると、以下のようになります。



※土地利用規制に捉われず、こうなったらいいなという視点からまとめています。

5.「イチオシエリア」と「残しておきたいエリア」

5-1 「イチオシエリア」におけるまちづくりの方向性

第7回深良ワークショップで話し合った「イチオシエリア」に選んだ市街地整備ゾーンのまちづくりイメージをまとめました。

(1)新市街地整備ゾーン

■投票 1 位 ■投票 2 位 ■投票 3 位

グループ	こだわりポイント	気になるポイント
A	1 ららぽーと 深良	1 道路整備
	2 住宅の充実(人口増)	2 土地活用規制
	3 道路整備	—
B	1 新駅を中心とした商業施設や公共施設を構成	1 深良新駅の誘致が円滑に進むか？
	2 他の地域よりアクセスし易い動線を確保する	2 財源の確保
	3 市街化区域への編入が前提	3 市街化区域への編入可否
C	1 富士山が見える新駅(裾野新駅)	—
	2 バスターミナルを中心に人集め(総合運動場)	—
	3 地域のふれあい、活性化を目的にした街づくり	—
F	1 暮らしやすい街	1 土地利用の規制
	2 人とのつながり	2 生活パターンの把握
	3 あるもの、新しいものの融合	3 お金と時間

◇ハード面で共感された主な意見

⇒新駅を中心とした商業施設や公共施設による構成、他の地域からアクセスしやすい動線の確保、バスターミナルを中心に人集め(総合運動場)、ららぽーとと深良(←大型商業施設と解釈)、暮らしやすい街(←多機能集約型土地利用と解釈)



【土地利用の方向性】

◆交通結節点(新駅・バスターミナル)を核とした住・商・公による複合型の土地利用とアクセスの確保

<土地利用を構成する主な構成ゾーン>

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| ・商業にぎわいゾーン(商業施設・宿泊施設等) | ・健康福祉ゾーン(福祉・医療施設等) |
| ・文化教育ゾーン(文化・体育・教育施設等) | ・居住ゾーン(低層住宅地、集合住宅地等) |
| ・交通施設ゾーン(新駅、バスターミナル、駐車場等) | |

【解決に向けた課題等】

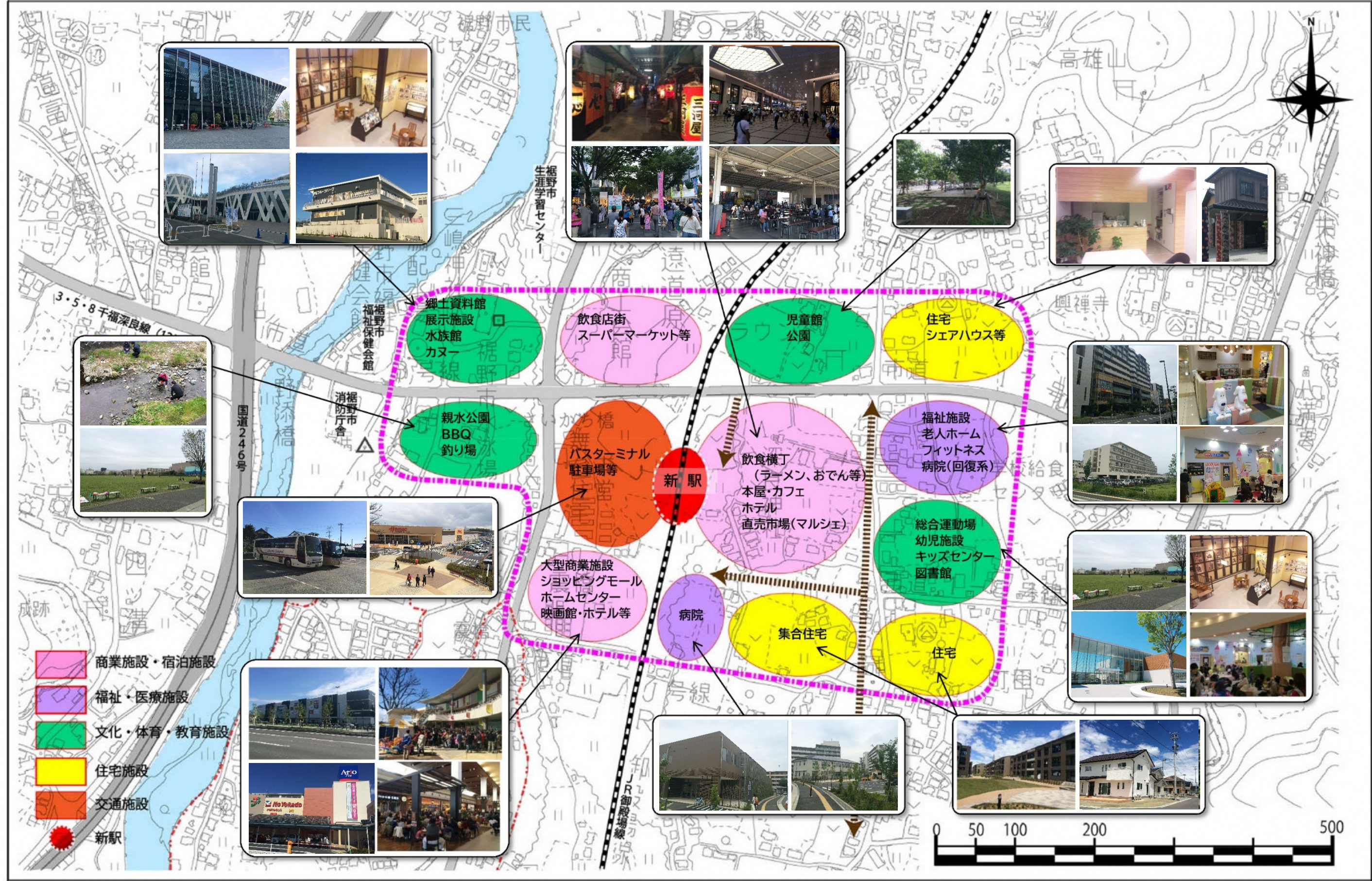
◇気になる意見(不安要素)

⇒新駅誘致の確実性、土地利用の規制解除(市街化区域への編入可否を含む)、財源の確保



◆駅を前提としない土地利用、市街化区域に編入しやすい場所、適度な規模感、地形等の条件考慮、事業費高騰条件の排除 等

(2)新市街地整備ゾーンの展開イメージ(案)



※土地利用規制に捉われず、こうなったらいいという視点からまとめています。

5-2 「残しておきたいエリア」におけるまちづくりの方向性

第7回深良ワークショップで話し合い「残しておきたいエリア」に選んだ文教・学園ゾーンのまちづくりイメージをまとめました。

(1) 文教・学園ゾーン

■ 投票 1 位 ■ 投票 2 位 ■ 投票 3 位

グループ	こだわりポイント	気になるポイント
A	1 教育(子育て)	2 土地活用規制
	2 土地活用	3 人口増(実現可能を待ってられない)
	3 雇用施設	—
D	1 自然とふれあえる深良	1 資金が心配
	2 ヤギ in 深良<Fukara>	2 人材(若者、子ども)
	3 育てよう深良っ子	3 交通
E	1 文教地区として集中化(深良中を文教地区へ移転)	1 少子高齢化
	2 深中跡地周辺に美化センター(健康センター等)	2 住民理解
	3 森林公園(ハイキングコース、マウンテンバイク等)	3 お金・財産区の理解・協力

◇ハード面で共感された意見

⇒ヤギ in 深良(←動物とのふれあい体験と解釈)、文教地区として集約化(深良中を文教地区へ移転)、深良中学校跡地周辺に美化センターを移転(健康センター等)、森林公園／ハイキングコース・マウンテンバイク等



【土地利用の方向性】

◆拠点の魅力とネットワークによる周遊性のある地域づくり

<土地利用を構成する主な構成ゾーン>

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| ・商業にぎわいゾーン(商業施設・宿泊施設等) | ・健康福祉ゾーン(福祉・医療施設等) |
| ・文化教育ゾーン(文化・体育・教育施設等) | ・居住ゾーン(低層住宅地) |
| ・交通施設ゾーン(新駅、バスターミナル、駐車場等) | ・自然・レクリエーションゾーン |

【解決に向けた課題等】

◇気になる意見(不安要素)

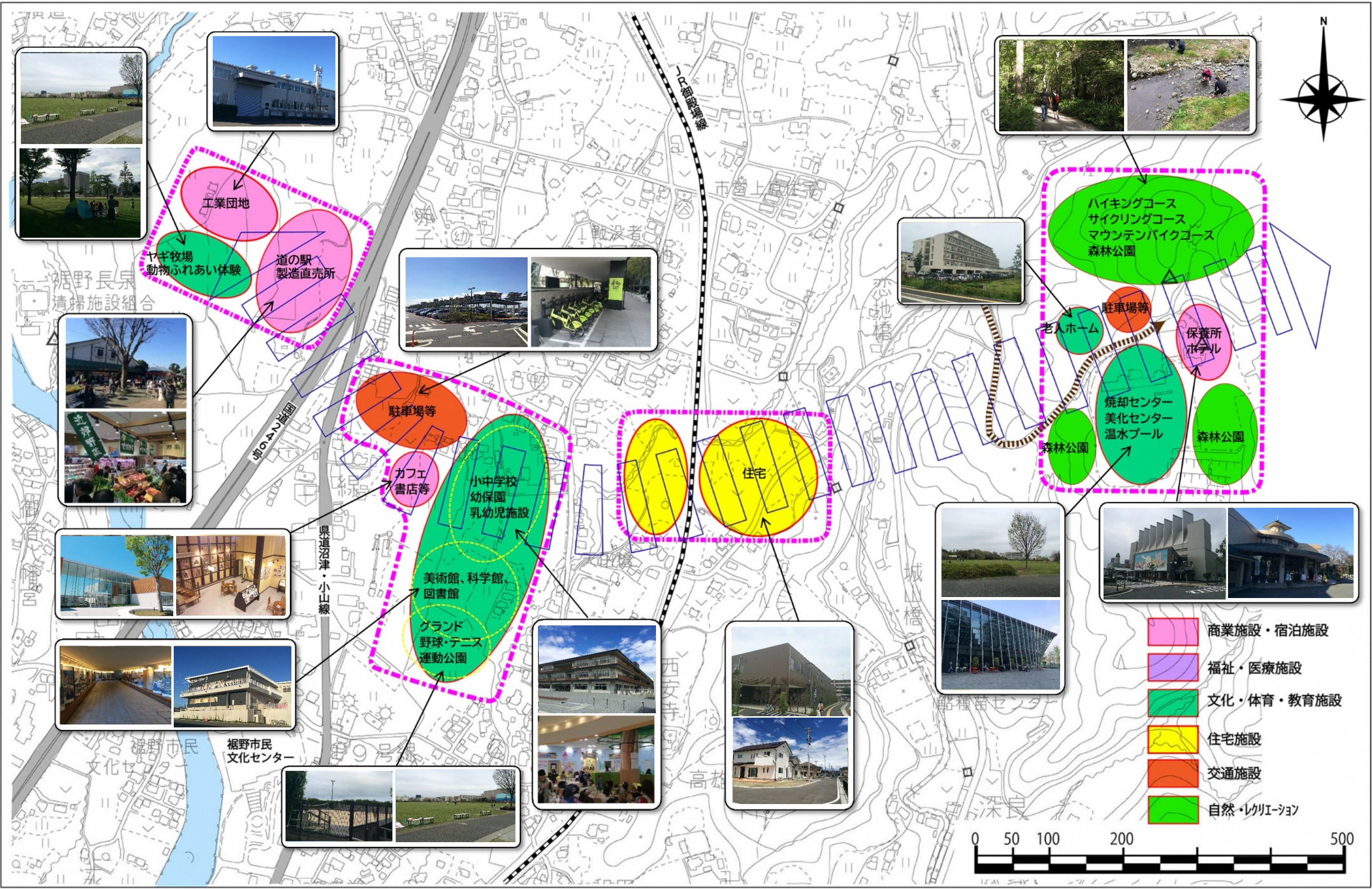
⇒資金が心配



◆集約化と跡地利用を前提とした拠点空間整備(市街化区域への編入を考慮しない)、事業資金の確保、権利者等の協力、ネットワーク道路の構築、交通安全面等への配慮(通学路や幹線道路等の存在)等

(2)文教・学園ゾーンの展開イメージ(案)

※写真はあくまでイメージです。



※土地利用規制に捉われず、こうなったらいいなという視点からまとめています。

6. アクションプラン

6-1 活動目標

これまで検討を重ね、出された意見は、いずれも地域の想いとして貴重なご意見であり、今後の深良地域のまちづくりを進めていく上で大事にしていく目標でもあります。

ただし、今後実現化に向けて進めていくためには、行政だけではなく、地域住民の一層の協力と参画が不可欠となります。

このため、第 8 回深良ワークショップの意見を踏まえ、新市街地整備ゾーンを中心とした夢まちづくりマップに掲げるまちづくりの具体的な活動の在り方などについて、行政、地域、個人による 3 つのパートに分け、それぞれの活動目標としてとりまとめました。

※まちづくり夢マップに掲げるまちづくりを一気に進めていくことは極めて難しいと言えます。

※従って、第 7 回ワークショップで関心の高い重要エリアとなる新市街地ゾーンを第一段階として、具体的な検討を進めていき、その他のゾーンは、地域での話し合いを重ねつつ、出来ることから少しずつ、段階的に取り組んでいくこととします。

地域がやるべきこと

- ◆富士山ビューの協力
- ◆トヨタとの協力
- ◆合意形成への協力
- ◆マルシェ・朝市等の開催
- ◆地区行事等の見直し
- ◆地域との関りの深化
- ◆住民間の意思統一
- ◆富士山や地元産業の PR
- ◆土地提供への協力 等

- ◆地域活動の取組みや合意形成への協力
- ◆地域主催の催し開催(PR)
- ◆地区行事等の見直し
- ◆地域との関りの深化(各見守り活動等)
- ◆土地や場所の提供 等

深良

- ◆行政の意識改革・体制強化
- ◆夢の実現の後押し
- ◆具体の計画づくり
- ◆住み良く楽しいまちづくり
- ◆区画整理の実現
- ◆トヨタ未来都市計画との連携
- ◆大学・企業の誘致
- ◆広告・PR
- ◆資金の確保 等

- ◆地域づくりへの技術的・資金的支援
- ◆企業・関係機関等との調整(許認可支援)
- ◆地域の PR、各種情報発信 等

行政がやるべきこと

- ◆地域の PR 協力
- ◆農園等の人の営みの継承
- ◆地域イベントを増やし参加する
- ◆行事に参加
- ◆伝統行事の伝承 等

- ◆地域活動・行事等への参加・協力
- ◆まちづくりへの理解・協力
- ◆合意形成への協力 等
- ※事業者など民間企業含む

個人がやるべきこと

6-2 夢の実現に向けた今後の展開イメージ

(1) 展開イメージ

【これまで】 ※深良ワークショップの開催経緯

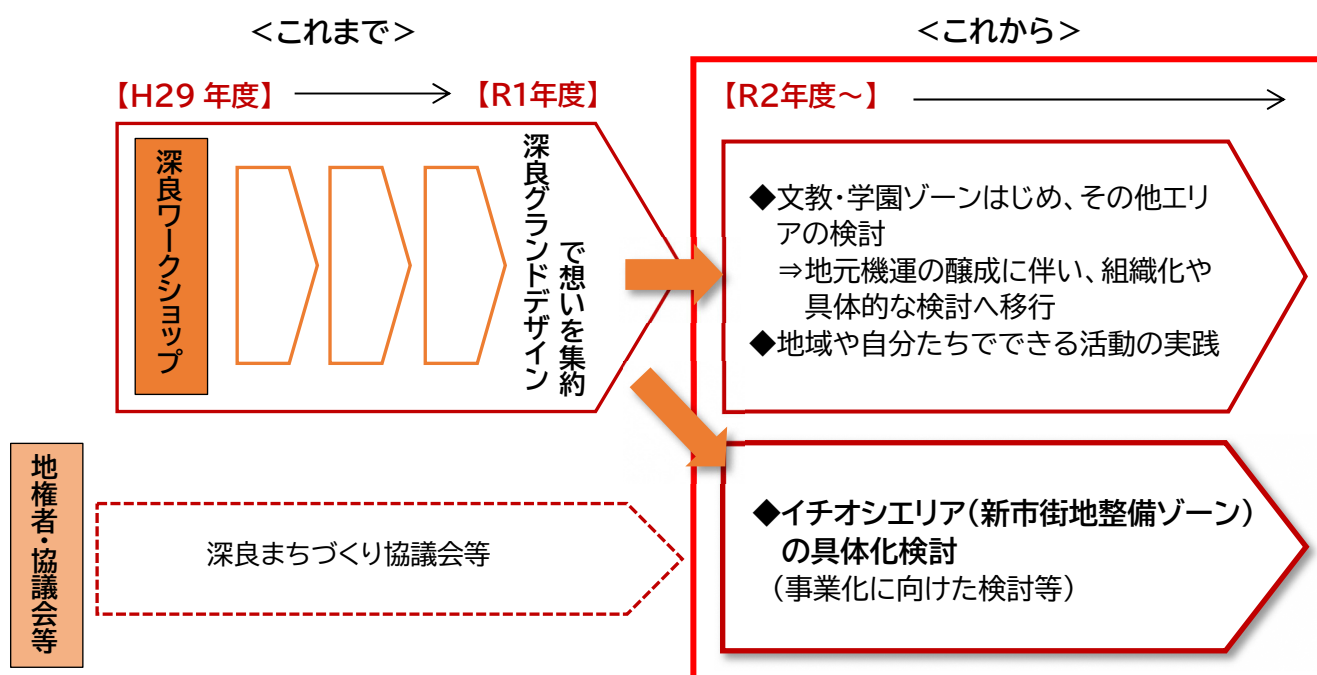
- 第1～2回(H29年度):「深良っ子に引き継ぎたい地域像の共有」
第3回(H29年度):「地域像の見える化」
第4回(H30年度):「深良の将来マップを作ろう」
第5-1～2回(H30年度):「ゾーニングプランの点検」
第6回(R1年度):「ゾーニングプランの「イチオシ」と「残しておきたい」を投票」
⇒1位:『新市街地整備ゾーン(85.7%)』、2位:『文教・学園ゾーン(37.5%)』
第7回(R1年度):「「イチオシ地区」と残しておきたい地区のゾーニングプラン」
⇒1位:『新市街地整備ゾーン(85.7%)』
第8回(R1年度):「「気になるポイント」への回答、これまでの話し合いのまとめ」

深良っ子の想いの集大成として、「深良グランドデザイン」を作成

【これから】

◇グランドデザインに基づきながら、以下の2つの流れで深良地域のまちづくりを進めていきます。

- ①「イチオシエリア(新市街地整備ゾーン)」の実現化を目指し、まちづくり協議会や地権者を中心とした具体的なまちづくりを検討します。
- ②これまでの活動で高まった深良っ子たちの想いと機運を継承し、第8回ワークショップで選ばれた人を中心にその他エリアにおける様々な活動につなげる話し合いを進めていきます。

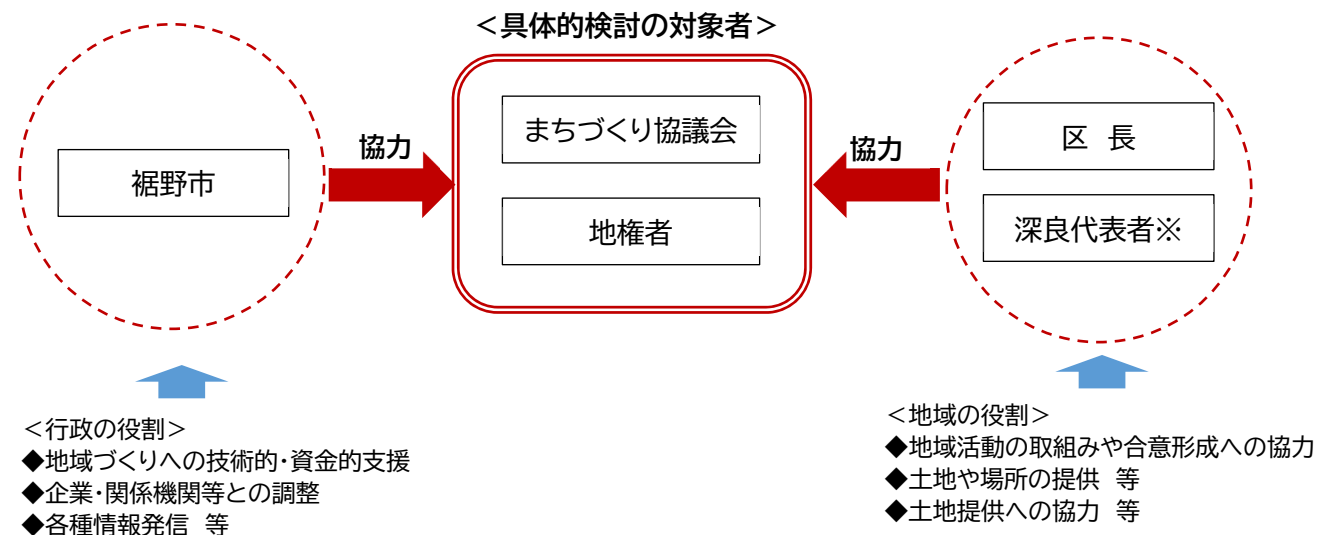


(2)「イチオシエリア(新市街地整備ゾーン)」の取組み

①取り組み体制について

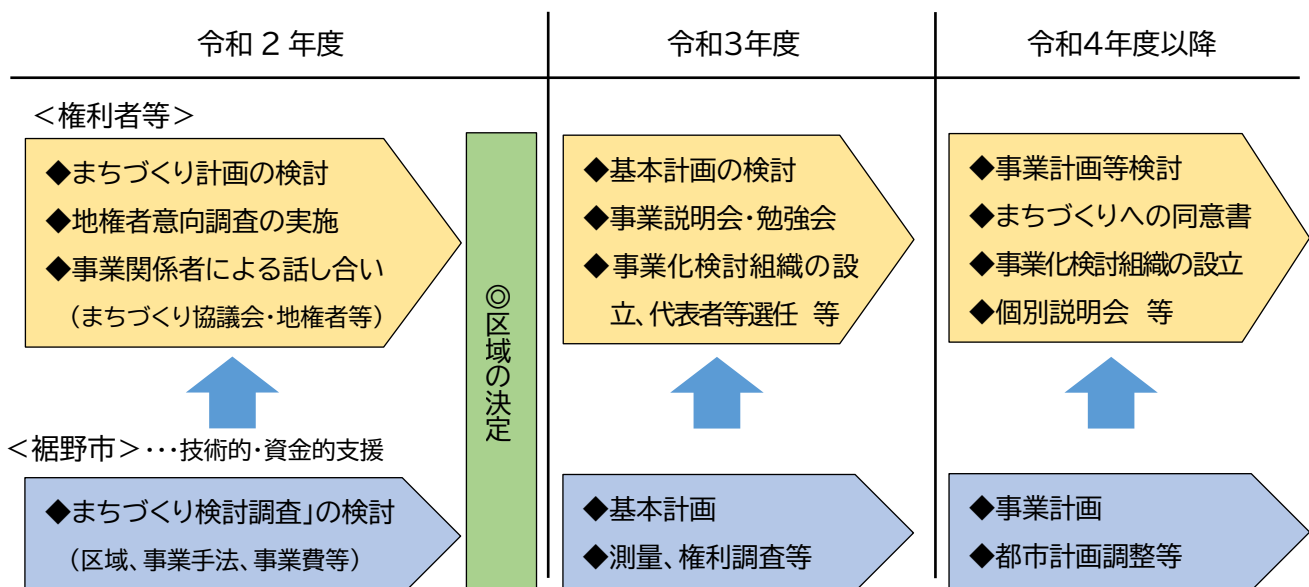
「イチオシエリア」については、より具体的な検討を進めていくため、話し合いは地権者等が組織するまちづくり協議会を中心に進めていきます。

ただし、第8回ワークショップでは、「イチオシエリア」の具体的な取り組みについて出された意見ごとに代表者を決めていますので、合意形成などへの協力・支援をするなど、連携を取りながら進めていくこととします。



②取り組みの流れについて

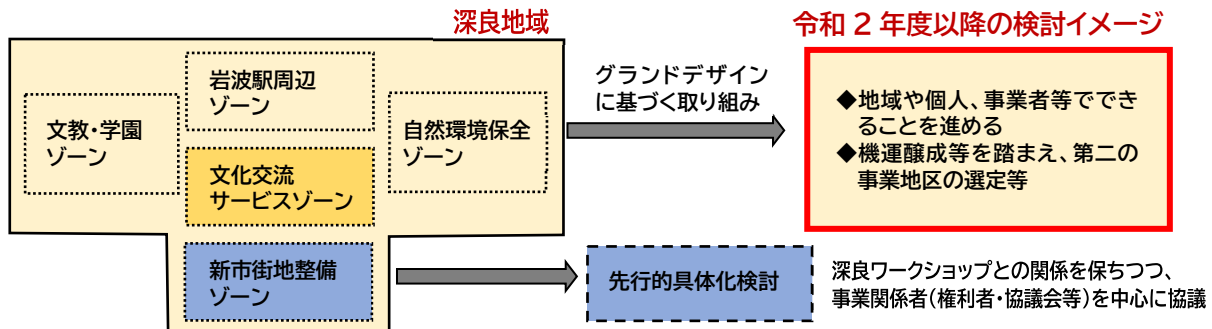
令和2年度は、深良ワークショップの中で課題解決に向け気になる意見として挙げられた土地利用規制への対応(市街化編入の可能性等)や資金面での不安要素を払拭するため、具体的な開発条件等についての検討を市へ要望し、具体的な話し合いを進めていきます。



(3) その他エリアの取組み

新市街地整備ゾーン以外の地域については、深良グランドデザインに基づく取組み方針に基づき、令和2年度以降も引き続きまちづくりの取組みを進めていきます。

※展開イメージ



<令和2年度の活動イメージ>

深良まちづくりとして継続した活動のイメージですが、話し合いのテーマは、地域の人々で考え、決めていきます。

◇各エリアの土地利用を考える

- ・令和元年度に実施した2ゾーンの土地利用の検討と同じように、その他エリアを対象とした土地利用のゾーニングイメージを検討する。

◇地域の役割として取り組む具体的な内容を考える

- ・グランドデザインで掲げた“地域の役割”を踏まえ、地域で取り組むべき具体的なイメージを話し合う。
- ・話し合いの結果、「どの内容について実際にやってみたいか」を投票し、次回ワークショップにて、実践することを前提として、具体的な取組み内容をさらに深化させていく。

◇具体的な活動プログラムを考える

- ・例えば、令和3年度に実際に何かの活動をやってみるというように、地域でやれることについて話し合い、実践していく。(小さな実践を積み重ね、大きな動きにつなげていく)

深

良地域
まちづくりランドデザイン

令和2年3月
深良地区区長会
